

校訓に変化ありやなしや

Looking at whether or not school mottos have changed

山口 倬史

Yamaguchi Takashi

はじめに

鹿児島県育英財団の補助金を頂き、全国都道府県立高等学校の校訓調査の結果を「校訓に見る教育理念解明の探索」と題して、発表してから二十五年が過ぎた。

この二十五年の間に、「校訓に見た教育理念」に変化があったのだろうか。

また、教育理念は、過去、現在、未来にわたって不変たるべき性質のものであるだろうか。

人間は、日々生動している社会環境に順応しつつ働きかけ、自己実現に努力している。そのことによって、たえず人間は成長・発達を続けていく。

自己に対しても社会に対しても、この世に生を受けたからには人間成長せねばならない義務がある。この義務を人間個々が負う以上、教育は人の個性を伸ばしつつも社会に適応して、よりよい社会を築く人間を養成する重大な責任を持っている。

この重大な責任を教育を施す学校現場は、どのような校訓（指針）の下に、どのような人間（子ども）を養成しようとしているのである

うか。そして、人間（子ども）に対して、学校は何を期待しているであろうか。

校訓は、時代は変わろうともその校訓の内に秘められた精神は、いつの時代にも使えるもので、校訓に寿命はないと思っている。だから、この校訓が教育の根本理念ではないかと思ひ、二十五年経った今、また校訓調査をして前回の調査結果と比較・検討してみようと思った。

その調査対象は、平成元年度から平成十九年四月までに新設もしくは統合・改編等されて開校した都道府県立高等学校である。

幸い、平成十九年度から本学の研究費を頂くことができたので、全国四十七都道府県教育委員会に「平成元年度から平成十九年四月までに新設もしくは統合・改編等されて開校した高等学校」の調査を依頼した。

早速、四十七都道府県教育委員会から回答を頂くことができた。この回答の高等学校名を見ながら、学校名にも変化があるのではないかと思われたので、以前調査した学校名を調べた。その結果、高等学校名にも大きな変化があった。

そこで、三百校の高等学校にアンケート調査を依頼している期間に、高等学校名の変化を整理した。その結果については、前回の研究紀要に「高等学校名の変化」と題して発表させて頂いた。

そして、今回は最初の研究課題であった「校訓に変化ありやなしや」と題して、まとめてみることにした。

このまとめができたのも、研究費を頂けたことと同時に、全国都道府県教育委員会、そして、アンケートに回答いただいた全国の高等学校の校長先生方のお陰と深く感謝している。まずは、紙面でお礼申し上げる。

一、校訓の調査校数とアンケート調査内容について

(一) 調査校数

— 前回の調査校数

調査校数二三八五校の内訳は、左表である。この内アンケート回答校数一八三〇校

調査回数 調査年・月 調査対象校 調査校数

第一回 昭和五十六年二月 普通科設置校のみ 一五五七

第二回 昭和五十七年五月 工業高等学校という校名のみ 三四八

商業高等学校という校名のみ 二二七

農業高等学校、農林高等学校、

農芸高等学校、園芸高等学校

畜産高等学校という校名のみ 一一三

水産高等学校という校名のみ 四〇

二 今回の調査校数

前回の調査では、普通科教育を施す学校と、専門教育を施す学校とが校名で判別できたので、普通科系、工業科系、商業科系、農業科系、水産科系と大学科別に校訓を分類・分析できた。

しかし、今回は前述したように、校名に大きな変化が見られたために大学科ごとの分類・分析はできなかった。

ここでは、今回全国四十七都道府県教育委員会から頂いた学校数を

もとにアンケート発送数と回答数の集約結果を紹介しておく。

なお、全国都道府県教育委員会への調査期間は、平成十九年七月から十月。また、教育委員会から回答頂いた高等学校へのアンケート依頼発送開始は九月。アンケート集約最終月は十二月である。

都道府県名	開校数	発送数	回答数	都道府県名	開校数	発送数	回答数
北海道	20	17	14	青森	2	2	2
岩手	8	8	6	宮城	8	8	8
秋田	5	5	4	山形	5	5	2
福島	5	5	5	茨城	5	5	4
栃木	6	6	5	群馬	5	5	3
埼玉	5	5	2	千葉	8	8	7
東京	21	21	9	神奈川	17	17	7
新潟	13	13	6	富山	0	0	0
石川	3	3	1	福井	0	0	0
山梨	4	4	3	長野	3	3	1
岐阜	18	18	11	静岡	2	2	1
愛知	4	4	3	三重	4	4	2
滋賀	2	2	0	京都	1	1	0
大阪	41	41	19	兵庫	8	8	6
奈良	13	13	11	和歌山	0	0	0
鳥取	7	7	7	島根	2	2	1
岡山	4	4	2	広島	6	6	4
山口	6	6	6	徳島	2	2	1
香川	3	3	2	愛媛	0	0	0
高知	6	6	4	福岡	15	15	11
佐賀	2	2	2	長崎	2	2	1
熊本	0	0	0	大分	2	2	1
宮崎	1	1	1	鹿児島	6	6	6
沖縄	3	3	3	計	303	300	194

なお、開校数と発送数が一致しないのは、定時制高校、夜間制高校を除いたためである。

(二) アンケートの調査内容

第一回(昭和五十六年二月発送の分)

一、沿革 明・大・昭 年 月 日 設立許可・当時の学校名 ()

二、校訓 ()

三、教育目標 ()

四、現在の校名 () (高等学校 生徒数) () (名)

総学級数 () (所在地) ()

五、校名の由来(簡単でよろしいです。例えば地区名とか)

記載者 () (先生)

ご協力ありがとうございました。

第二回(昭和五十七年五月発送の分)

一、沿革 明・大・昭 年 月 日 設立許可・当時の学校名 ()

二、校訓 ()

三、校訓制定は 明・大・昭 年頃(わかっていましたらお願いします)

四、校訓の必要性について(先生のお考えでよろしいです)

1、必要である 2、必要でない

五、現在の校名 () (高等学校 生徒数) () (名)

総学級数 () (所在地) ()

六、校名の由来(簡単でよろしいです。例えば地区名とか)

記載者 () (先生)

ご協力ありがとうございました。

第三回(平成十九年九月発送の分)

一、校名は () (県立) () (高等学校)

(1) 開校は、平成()年()月(新入生を受け入れた年度)

(2) 設置学科は 大学科() () ()

二、学校は 新設 改編 統合 された高校である。

(1) もしくは に回答された学校にお尋ねします。

学校は、大学科() (科と) () (科が改編・統合され

た高校である。

三、校訓は、(1) ある (2) ない

(2) に回答された学校にお尋ねします

校訓は ()

四、校訓の必要性について(先生のお考えでよろしいです)

1、必要である 2、必要でない

回答者 職名 () () (氏名) ()

ご協力ありがとうございました。

二 都道府県別校訓の前回と今回の調査集約状況について

都道	前回の調査結果			今回の調査結果		
	依頼校	回答校	制定校	依頼校	回答校	制定校
北海道	一四三	一一七	七三	一七	一四	一四
青森	三六	三五	三三	二	二	二
岩手	六〇	四三	二九	八	六	五
宮城	四八	四一	三二	八	八	六
秋田	二五	二二	二〇	五	四	三
山形	三八	二九	一四	五	二	二
福島	五五	四二	二九	五	五	四
茨城	五九	四六	四三	五	四	四

都道	前回の調査結果			今回の調査結果		
	依頼校	回答校	制定校	依頼校	回答校	制定校
府県	三三	三一	二六	六	五	四
栃馬	四七	三四	二〇	五	三	一
群馬	一一	七八	三五	五	二	二
埼玉	八五	六九	四九	八	七	七
千葉	一九〇	一三九	六一	二	九	四
東京	一一九	八〇	三四	一	七	四
神奈川	五三	四〇	一八	一	三	五
新潟	一七	一五	一三	〇	〇	〇
富山	二六	二〇	一五	〇	〇	〇
石川	三三	二八	一九	〇	〇	〇
福井	一七	一五	一三	〇	〇	〇
山梨	二六	二〇	一五	〇	〇	〇
長野	六八	五二	二五	三	四	三
岐阜	五〇	四三	三八	一	一	一
静岡	六五	五一	四八	二	一	一
愛知	九四	七二	五五	四	三	二
三重	三六	二五	一三	四	二	二
滋賀	二二	一七	一一	二	〇	〇
京都府	一四	八	四	一	〇	〇
大阪府	一二七	六七	四七	四	一	一
兵庫	九〇	五六	五〇	八	六	六
奈良	二四	一九	一六	一	一	一
和歌山	一八	一六	一六	〇	〇	〇
鳥取	一七	一七	一〇	七	七	六
島根	二二	一六	二二	二	一	〇
岡山	四一	三五	二四	四	二	二
広島	五〇	三六	二五	六	四	四

都道	前回の調査結果			今回の調査結果		
	依頼校	回答校	制定校	依頼校	回答校	制定校
府県	四五	三九	二五	六	六	六
山口	二〇	一七	一四	二	一	〇
徳島	一六	一一	一一	三	二	一
香川	三一	二七	二五	〇	〇	〇
愛媛	一九	一六	一二	六	四	四
高知	七六	六〇	三八	一	一	一
福岡	三〇	二五	二二	二	二	〇
佐賀	四四	三五	二九	二	一	一
長崎	四一	三五	三三	〇	〇	〇
熊本	二二	一九	一二	一	一	一
大分	二二	一九	一二	一	一	一
宮崎	四六	四二	三七	六	六	六
鹿児島	二四	一七	一一	三	三	三
沖縄	二四	一七	一一	三	三	三

(一) 集約結果の分析

前回の調査は、調査依頼校二千三百八十五校中、回答を頂いた高校が千八百三十校で回答率七十六・七％。校訓の制定校は、千二百五十四校で制定率六十八・五％であった。

一方、今回の調査では、調査依頼校三百校中、回答を得た高校が百九十四校で、回答率六十四・七％。校訓の制定校は、百六十二校で制定率八十三・一％。

今回は、アンケートに対する回答率が、前回に比べ一・六ポイント低かったが、校訓制定率は、十四・六ポイント高くなっている。

ところで、前記表から校訓の制定率九十％以上、制定率八十％台、制定率五十％未満の県を、前回と今回について整理してみた。

		九十%以上		八十%台		五十%未満	
		前回	今回	前回	今回	前回	今回
熊本	山梨		長崎			佐賀	
大分	石川		徳島			和歌山	
愛媛	千葉		兵庫			長野	
香川	埼玉		奈良			神奈川	
静岡	茨城		福井		新潟	埼玉	
茨城	山形		石川		栃木	群馬	
秋田	青森		岐阜		福島	新潟	
青森	北海道		栃木		岩手	山形	東京

この結果、今回調査では、都道府県別に見た校訓制定率九十%以上の都道府県が二十四都道府県に達し、四十七都道府県の五十一%になっている。人口密度も高い関東、中部、近畿地区でも高い制定率であるのが今回の特徴である。

このことは、校訓の必要性についても変化があるのではないかと思われるので、後で記述する。

ところで、前回、今回共に、高い校訓制定率となっている青森県について調べてみた。前は、三十六校にアンケートを依頼し、三十五校から回答を頂き、校訓を制定していた校数は三十三校で、制定率九十四%。高度経済成長期といわれた昭和四十六年以降の人口移動で新設された、六校の校訓の制定率を見ると一〇〇%となっていた。

従って、青森県の公立高校は、昭和四十六年以降に開校した高校全てが校訓を制定していることになる。

次に、藩校・私塾が設置されていた地域の校訓制定率について考察したが、関係はない。

ちなみに、東京には、荻生徂徠の私塾「護園塾」があったし、和歌山県には藩校「学習館」、佐賀県には藩校「引道館」があった。しかし、校訓の制定率は五十%未満である。

だから、校訓制定については、地域の関連性 「藩校・私塾」の設置地域などとの関連性はない。ただ、今回の調査で学校開校の時代背景が校訓に大きく反映していると読めたのが収穫であった。

このことについては、後で、漢字表示による校訓の分析、また短文調校訓の分析で記述する。

三 校訓制定の是非について

前にも記しているように、第一回アンケートには、校訓の必要性についての設問はなかった。

しかし、第一回調査で「校訓は必要ない」という添え書きを頂いたので、第二回目と今回のアンケートに、校訓の必要性について尋ねた。その結果を紹介する。

	前回	%	今回	%
必要である	六三三	八八・九	一六五	八五・五
必要でない	四一	五・八	二一	一〇・九
無回答(どちらとも言えない)	三八	五・三	八	四・一

「必要である」の回答は、前回と今回を合わせて八十八・二%という高率である。

このことから、校訓の必要さがわかる。ただ、校訓は「必要でない」という先生方の理由は、「教育目標で十分」であるという回答であった。

ただ、今回一人だけ「心情を問う質問には回答できない」という回答があった。

なお、校訓は「必要でない」という回答をいただいた先生方所属校の校訓の制定状況を調べてみると

	前回	今回
校訓が制定してある	八	七
校訓が制定してない	三三	一四

この表から、現在校訓が制定されていない学校の先生ほど、校訓の必要論者が多い。一方、校訓は制定してあるが「必要でない」と回答いただいた先生方の学校創設年度を調べてみると、前回は、明治、大正、昭和の初期に創設された学校の先生方に多く見られた。今回もやはり、明治、大正、昭和の初期に創設された学校が母体になり、統合、もしくは再編された学校の先生方に多く見られた。

従って、現在の社会状況に呼応した校訓であったら、必要と回答された先生方の数に変化があったのではないかと思つた。ただ、必要と回答された先生方で、先述したが「教育目標で十分である」とい

う理由を付記されていたので、「教育目標」とは、どのように解したらいのか、三和書房出版の「教育原理概説」から調べてみた。(左記文章の傍線は、筆者が記した)

「……教育の目的は、理想的人間像をさし、教育の目標は、この人間像を構成する資質を意味するのである。したがって、教育目的が一般的・普遍的・抽象的であるのに対して、教育目標は、特殊的・個別的・具象的であるのが常である」と記している。これから考えると、教育目的は校訓で、時代は変わっても不変な目的(校訓)でなければならぬ。この校訓を支柱に、教育目標は、時代に即応した変化し得る枝葉で、その時々地域・社会の要請に応えられる枝葉。これが教育目標と解した。

学校には、長い歴史を刻む中で、脈々と流れる時々不変な精神が宿っていなければならない。この不変な精神が校訓で、先生方も不変な校訓を必要と思つておられるのだ。

だから、校訓には寿命はなく、地域、学科、開校年度は違つても、校訓を同じとする学校があるのだと思つた。

四 都道府県別公立高等学校の校訓一覧について

前回の調査結果一覧は、教育制度の変遷、また、教育・文化史・政治・経済史を考えることで高校設立時の社会状況を見た。

この視点に立ち一覧表を整理した。
その一覧表の最初を前回の報告書より引用しておく。

なお、教育・文化史・政治・経済史は、文部科学省発行の「学生百年史」、第一学習社発行の「日本史図表」、日本教育年鑑、玉川百科大

辞典等を引用した。

西曆	教育・学術・文化史	設立と現在の校名	都道府県	設立前の校名	校訓	政治・経済
一八五五		三月	藤島	福井県	福井藩校	質実剛健ナルベシ
(安政二年)					明道館	礼儀ヲ正シクスベシ
						日米和親条約

規程ヲ守ルベシ	一八五四年
責任ヲ重ンズベシ	堀田正睦
勤勞ヲ尚ブベシ	老中就任

このように、二三八五校を年代別に整理し、その後、大学科（普通科、工業科、商業科、農業科、水産科）別と都道府県別に整理したのが前回の報告書であった。

しかし、今回は、大学科ごとに整理できなかつた。理由は、前回の紀要に発表したとおり、学校名に大きな変化があつたためである。だから、今回は、前回の整理法とは異なるが、左記のように都道府県別校訓一覧表を作成した。

北海道（一四校）

校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合
赤平	平成元年	誠意を持ち常に正しきを探れ				

明朗にして自己を開拓するに果敢なれ 普
知性を磨き真理に謙虚たれ

札幌国際

情報	平成七年	誠実・友愛・創造	普	外国語・工商		
留萌千望	平成十年	英知・友愛	工・商			
美唄	平成十一年	夢を叶えよ	普・商・家・農			
富良野						
緑峰		心豊かに学び 考え 逞しく	農・工・商			

校名 開校年度 校訓 設置学科 新設 改編 統合

名寄光凌	平成十二年	誠実・情熱・創造	普・工・家			
江差	平成十六年	学業集中	普			
芦別	"	励み鍛え 励み近め	普・商			
深川東	平成十七年	誠実勤勉	商・農			
登別青嶺	"	至誠・練磨・自律	普			
室蘭東翔	平成十八年	至誠 日々新	総合学科			
士別翔雲	平成十九年	一步前へ	普・総合ビジネス			
紋別	"	誠実・勤勉・敬愛	普・工・商			
釧路明輝	"	輝ける挑戦者たれ	総合学科			

青森県（二校）

十和田西	平成元年	自律・進取・敬愛	普			
尾上総合	平成十一年	自立・探求・調和	総合学科			

岩手県（六校）

花巻農業	平成十二年	なし	農			
花北青雲	平成十五年	自立創造	工・商・家			
一関第二	平成十六年	自主の心 意志の力 創造の意欲	総合学科			
北上将南	"	進取・創造	総合学科			
久慈東	"	礼節・進取・剛健	総合学科			
大東	"	切磋琢磨	普			

宮城県（八校）

富谷	平成六年	進取・明知・自律・協同	普			
宮城野	平成七年	なし	普・美術・総合科			
蔵王	平成八年	自立・創造・友愛	普			
追桜	平成十三年	敬愛・創造・至誠	総合学科			

校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合
東松島	平成十四年	なし	普			
築館	平成十七年	共助・研鑽・進取	普			
角田	"	質実剛健・自他敬愛	普			
気仙沼	"	至誠励業・究理創造	普			
大子清流	平成十五年	自律・創造・友愛	普			森林科・総合学科
江戸崎						
総合	平成十七年	至誠・創造・飛躍	総合学科			
常陸大宮	平成十八年	挑戦・湧きあがれ君の力	普・工			
石岡第一	平成十九年	誠実・自治・博愛	普・農			

秋田県(四校)

大館	平成四年	自律・創造	普・家			
平成	平成六年	日日新・又日新	普・商			
男鹿海洋	平成十六年	なし	普・水産			
大館国際						
情報学院	平成十七年	明朗・礼節・進取・自律	普・商			
益子芳星	平成十七年	なし	普			
日光名峰	"	自主自立・努力創造・敬愛奉仕	普			
学悠館	"	出藍	普・商			
栃木翔南	平成十八年	自立・叡智・連帯	普			
足利清風	平成十九年	愛・智・力	普・商			

山形県(二校)

上山						
明新館	平成五年	日日新たに、又日に新たなれ	普・商・農			
霞城学園	平成九年	創造・挑戦・継続	普・服飾			
大田	平成十七年	なし	普			
フレックス		なし	普			
伊勢崎	"	なし	文理総合学科			
安中総合						

福島県(五校)

いわき						
光洋	平成五年	自主・自学・自律	文理			
あさか		Global Spirits、Creative Spirits、				
開成	平成八年	Human Spirits	国際学科			
光南	平成八年	自由・責任・創造	総合学科			
郡山萌世	平成十三年	自主・自律・創造	普			
いわき						

茨城県(四校)

翠の杜	平成十六年	なし	普			
鶴舞						

群馬県(三校)

学園	平成十八年	軒昂な意気・深遠な叡智・個性の光輝	総合学科			
芸術総合	平成十二年	誠実・創造・協調	芸術総合科			
進修館	平成十七年	誠実・進修	普・総合学科			
千葉総合	平成八年	独立自主・協調現和	総合学科			
大多喜	平成十六年	大中至正	普・英語科			

千葉県(七校)

幕張総合	平成八年	独立自主・協調現和	総合学科			
大多喜	平成十六年	大中至正	普・英語科			

校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合
桜が丘	平成十七年	誠実・創造・感謝	総合ビジネス科			
市川工業	平成十八年	研学受理・互助信頼・自主明朗	工			
野田中央	"	自律・理知・情熱	普			
茂原樟陽	"	創る・育む・輝く	農・工			
柏の葉	平成十九年	自立・創造・飛躍	普・情報			
東京都（九校）						
晴海総合	平成八年	なし	総合学科			
飛鳥	"	なし	普（単位制高校）			
科学技術	平成十三年	英知・創造・調和	工			
六郷工科	平成十六年	なし	工			
美原	平成十七年	自律共生	普			
大泉桜	"	なし	普			
忍岡	平成十八年	なし	普・生活科学			
板橋有徳	平成十九年	自由と規律	普			
葛飾総合	"	進取創造・自主自律	総合学科			
神奈川県（七校）						
藤沢工科	平成十五年	なし	工・総合技術科			
平塚工科	"	健康・誠実・創造	総合学科			
横浜南陵	"	なし	普			
藤沢総合	平成十六年	自律した個、総合的な知、共生する心	総合学科			
小田原	"	至誠無息・堅忍不拔	普			
川崎	"	なし	普			
横浜	"	なし	普			
清陵総合	"	なし	普			

校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合
新潟県（六校）						
国際情報	平成四年	学ぶ精神 意気高く	国際文化・情報科学			
八海	平成七年	なし	普・福祉科・体育科			
糸海川						
白嶺	平成十年	真・善・美	総合学科			
柏崎総合	平成十四年	自立・創造・共生	総合学科			
吉田	平成十五年	率先垂範・熱と気魄	普			
新潟県央						
工業	平成十六年	知性・情熱・創造	工			
富山県（〇校）						
石川県（一校）						
能都北辰	平成十二年	誠実・創造・協調	普・水産			
福井県（〇校）						
山梨県（三校）						
北杜	平成十三年	古教創真	総合学科			
ひばりが丘	平成十六年	自主・自律	普・情報経理科			
富士北稜	"	明日を拓き 未来を創る	総合学科			
長野県（一校）						
飯山	平成十九年	なし	普・体育科			
岐阜県（十一校）						
大垣桜	平成七年	賢く つよく 美しく	家庭科・福祉科			
岐阜総合						
学園	平成九年	自主・創造・友愛	総合学科			
華陽フロン						

校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合	校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合	
ティア	平成十二年	不屈の精神・師弟同行・母校愛	普				日根野	平成七年	自立・共生・友愛	普				
坂下	平成十五年	賢(かしこく)剛(つよく)優(やさしく) 普					柴島	平成八年	なし	総合学科				
東濃フロン							松原	"	なし	総合学科				
ティア	平成十六年	なし	普				今宮	"	磨け知性・輝け個性	総合学科				
関有知	"	自立・創造・敬愛	普・理数科・生活産業科				福井	平成十三年	自律・敬愛・克己	普				
岐阜城北	"	至誠・進取・練磨	総合学科				堺東	平成十四年	自尊・敬愛・堅忍・協同・好学・進取	総合学科				
岐阜各務野	平成十七年	自律・感謝・挑戦	商・情報・福祉				槻の木	平成十五年	なし	普				
益田清風	"	向学自主・直心友愛	普・総合学科・商				八尾北	"	流汗求道	総合学科				
大垣養老	"	自主創造・質実剛健	総合学科・農業科				貝塚	平成十六年	質素・堅実・敬愛互助	総合学科				
加茂	平成十九年	明朗進取・誠実努力・親愛奉仕	普・理数科				枚方なぎさ	"	至誠探求・敬愛練磨	普				
静岡県(一校)							伯太	"	誠実・自律・努力	普(総合選択制)				
静岡中央	平成五年	自立・挑戦・創造	普				淀川工科	平成十七年	自ら考え責任ある行動をとる	工				
愛知県(三校)							泉北	"	豊かな人間性と想像力を生かそう	工				
杏和	平成十七年	なし	総合学科				布施工科	"	誠実で明るく健康で知性豊かな人格	国際文化・総合学科				
知多翔洋	"	最善を尽くす	総合学科				東住吉総合	"	なし	総合学科				
常滑	平成十八年	徹	普・セラミックアート科				成城	"	誠実明朗・自発創生・和親協同	総合学科				
三重県(二校)							堺工科	"	人格の陶冶 有為な工業人の育成	工				
あけぼの	平成十年	強く 明るく 真心で	総合学科				住吉	"	自主・自律	普(総合選択制)				
いなへ							緑風冠	平成十八年	英知・至誠	普(総合選択制)				
滋賀県(〇校)							兵庫県(六校)							
京都府(〇校)							三田西陵	平成五年	自主・創造・飛翔	普				
大阪府(十九校)							三田祥雲館	平成十四年	自律・創造・敬愛	普				

校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合
武庫荘総合	平成十五年	自主独立・敬愛協心・日進創造	総合学科			
国際	"	叡智・創造	国際科			
神戸鈴蘭台	平成十九年	共生・優雅・創造	普			
淡路三原	"	自強・敬愛・叡智	普			
奈良県(十一校)						
青翔	平成十六年	剛健・誠実・知性・友情・奉仕	理数科			
西和清陵	"	清新・敬愛・力行	普			
畝傍	"	至誠・至善・堅忍・力行	普			
榛生昇陽	"	なし	普・福祉科			
法隆寺国際	平成十七年	誠実・創造・気迫・敬愛	国際英語科・国際教養科			
高取国際	平成十七年	さくきよくゆたかにたくましく	国際科			
大和広陵	"	自他敬愛・誠意努力・自主創造	普・体育科			
奈良情報						
創業	"	自由・自立・責任	商・情報科			
奈良北	"	自律・共生・創造	普・理数科			
奈良朱雀	平成十九年	誠実・克己・闊達	工・商・情報科			
御所実業	"	至誠・創造・堅忍	工・農			
和歌山県(〇校)						
鳥取県(七校)						
日野	平成十二年	なし	総合学科			
鳥取湖陵	平成十三年	ともに学び、ともに生きる	工・農・家庭科・情報科			
鳥取中央						
育英	平成十四年	克己	普			
倉吉総合						
徳島県(二校)						
益田翔陽	平成十八年	なし	総合学科			
岡山県(二校)						
備前緑陽	平成十五年	夢実現、心豊かに輝け個性	総合学科			
倉敷鷺羽	平成十七年	誠実・創造・貢献	未来創造学科			
広島県(四校)						
大崎海星	平成十年	自主・自律・創造	総合学科			
囚島	平成十一年	自重互敬	総合学科			
広島	平成十六年	高い知性、豊かな感性 強い意志	普			
総合技術	平成十七年	敬愛・創造・飛翔	工・商・家庭科			
山口県(六校)						
下関中等						
教育	平成十六年	飛翔・自主・気概・向上	普			
徳山商工	平成十八年	誠実・協働・実践	機械・情報技術・環境システム			
柳井商工	平成十八年	至誠・礼節・質実剛健	商・工			
萩商工	"	「知行合一」「至誠一貫」「質実剛健」	工・商			
青嶺	平成十九年	誠実・創意・責任	普・工			
周防大島	"	至誠一貫・自主自立・友愛協働	普・福祉科			
徳島県(一校)						

校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合
徳島北	平成九年	なし	普			
香川県(二校)						
高松桜井	平成七年	なし	普			
多度津	平成十九年	清明強和	工・水産科			
愛媛県(〇校)						
高知県(四校)						
高知海洋	平成九年	天空海闊	海洋学科			
安芸桜ヶ丘	平成十四年	誠実	商			
大方	平成十七年	自主・努力・創造	普			
春野	平成十八年	なすことによつて学ぶ	総合学科			
福岡県(十一校)						
ひびき	平成十五年	自助・自敬・信愛	普			
鞍手竜徳	"	至美明練・同窓異彩	総合学科			
大川樟風	"	志学・創造・貢献	普・文理科・住環境システム			
ありあけ	"					
新世	"	自律・自彊・飛躍	総合学科			
青豊	"	賢く・優しく・逞しく	総合学科			
輝翔館中等						
教育館	平成十六年	進取創造	普			
浮羽究真館	平成十七年	立志・練磨・不愧	普			
嘉穂総合	"	和(なごみ)	普・地球環境科・ロボット科			
田川科学						
技術	"	大志創造・実践自立・和協友愛	農・工・商			
福岡講倫館	"	質実剛健・切磋琢磨・進取創造	総合学科			
校名	開校年度	校訓	設置学科	新設	改編	統合
門司大翔館	"	立志勤勉・自主創造・誠敬忍耐	普			
佐賀県(二校)						
唐津青翔	平成十七年	なし	普			
武雄	平成十九年	なし	普			
長崎県(一校)						
鳴滝	平成十二年	共に生きる 強くひたむきに	普・商			
熊本県(〇校)						
大分県(一校)						
三重総合	平成十八年	希望・誇り・克己	普・農・商			
宮崎県(一校)						
延岡星雲	平成十七年	志の風・美の風・創造の風	普			
鹿児島県(六校)						
開陽	平成十二年	夢・実現	普・福祉科			
鶴翔	平成十七年	挑戦・感動 そして愛	総合学科・農業科			
薩摩中央	"	自律・創造・共生	普・農学科・福祉科			
種子島	"	誠実・気魄・寛恕・創造	普・生物生産・電気科			
徳之島	平成十八年	敬愛・向学・共生	普・総合学科			
川薩清修館	平成十九年	自律・至誠・友愛	商・総合学科			
沖縄県(三校)						
向陽	平成六年	凶南雄飛	国際文化 理数 普			
那覇国際	平成十年	自主・敬愛・飛躍	普・国際科			
名護商工	平成十九年	自主・創造・飛躍	工・商・情報			

このような、整理法で沖縄まで回答校一九四校を整理した。そして、

この整理表に基づき分析を試みた。

五 漢字表示による校訓の分類と分析について

(一) 漢字表示の校訓を「字数と句数」で分類した校訓の制定校数

5					3					1					字数		
4	3	2	1		6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	句数
前					今					前					今		
回					回					回					回		
—	二	—	—	四	—	〇	〇	—	二	六	〇	〇	二	—	九	二	九
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	—	—	〇	〇	—	三	〇	二	二
6					4					2					字数		
4	3	2	1		6	5	4	3	2	1	6	5	4	3	2	1	句数
前					今					前					今		
回					回					回					回		
〇	—	〇	〇	〇	〇	七	—	八	四	—	三	—	四	—	五	—	五
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	—	—	—	—	—	六	—	八	—	三

以上、漢字表示による校訓は二三校で、回答校一九四校に対し六十三・四％という高い制定率であった。

(二) 漢字表示の校訓を「字数と句数」によって分類した校訓一覧
前記表で整理した「字数と句数」の分類結果が、次のとおりである。

- 一字1句(二校) 徹。和。
- 一字3句(三校) 愛・智・力。真・善・美。賢・剛・優。
- 一字4句(一校) 清・明・強・和。
- 二字1句(三校) 出監。克己。誠実。
- 二字2句(八校) 英知・友愛。自律・創造。自主・自律(二)。
叡智・創造。進取・創造。誠実・進修。英知・至誠。
- 二字3句(六三校) 誠実・友愛・創造。誠実・情熱・創造。誠実・創造・協調(二)。誠実・創造・感謝。誠実・創造・貢献。誠実・勤勉・敬愛。誠実・自治・博愛。誠実・自律・努力。誠実・協働・実践。誠実・創意・責任。誠実・克己・闊達。自主・自律・創造(二)。友愛・自律・創造。自主・努力・創造。自主・創造・飛躍。自主・創造・飛翔。自主・創造・友愛。自主・敬愛・飛躍。自主・自学・自律。自律・進取・敬愛。自律・相知・情熱。自律・感謝・挑戦。自律・創造・共生(二)。自律・共生・創造。自律・創造・友愛(二)。自律・創造・敬愛。自律・至誠・友愛。自律・敬愛・克己。自律・自彊・飛躍。自立・探求・調和。自立・創造・共生。自立・創造・敬愛。自立・創造・友愛。自立・創造・飛躍。自立・挑戦・創造。自立・共生・友愛。

二字4句(六校)

至誠・練磨・自律・至誠・創造・堅忍・至誠・
進取・練磨・至誠・創造・飛躍・自由・責任・
創造・創造・挑戦・継続・自助・自敬・信愛・
自彊・敬愛・叡智・自由・自立・責任・自立・
叡智・連帯・健康・誠実・創造・知性・情熱・
創造・敬愛・向学・共生・敬愛・創造・至誠・
敬愛・創造・飛翔・礼節・進取・剛健・共助・
研鑽・進取・英知・創造・調和・共生・優雅・
創造・清新・敬愛・力行・真摯・共生・自立・
志学・創造・貢献・立志・練磨・不愧・希望・
誇り・克己。

進取・明知・自律・協同・誠実・創造・気迫・
敬愛・至誠・至善・堅忍・力行・明朗・礼節・
進取・自律・飛翔・自主・気概・向上・誠実・
気魄・寛恕・創造。

二字5句(一校)

剛健・誠実・知性・友情・奉仕

二字6句(一校)

自尊・敬愛・堅忍・協同・好学・進取

三字1句(一校)

夢実現(心豊かに輝け個性)

三字2句(一校)

日々新・又日新

四字1句(二二校)

学業集中。誠実勤勉。自立創造。切磋琢磨。大
中至正。進取創造。自立共生。古教創真。流汗
求道。自重互敬。天空海闊。凶南雄飛。

四字2句(一〇校)

質実剛健・自他敬愛。至誠励業・究理創造。独
立自尊・協調現和。自主創造・質実剛健。向学
自主・真心友愛。進取創造・自主自律。至誠無

息・堅忍不拔。率先垂範・熱と気魄。至誠探求・
敬愛練磨。至実明鍊・同窓異彩。

四字3句(一一校)

自主自律・努力創造・敬愛奉仕。研学受理・互
助信頼・自主明朗。明朗進取・誠実努力・親愛
奉仕。自他敬愛・誠意努力・自主創造。大志創
造・実践自立・和協友愛。質実剛健・切磋琢磨・
進取創造。立志勤勉・自主創造・誠敬忍耐。誠
実明朗・自発創生・和親協同。自主独立・敬愛
協心・日新創造。至誠一貫・自主自立・友愛協
調。知行合一・至誠一貫・質実剛健。

一字と二字(一校) 夢・実現

二字と三字(一校) 至誠 日々新 (北海道)

二字の2句と四文字1句(二校) 質素・堅実・敬愛互助。至誠・礼

節・質実剛健。

(三) 漢字表示の校訓を「字数と句数」で分類した校訓の分析

今回、短文式校訓採用校数が二十九校あったが、前回同様、今回も
漢字の校訓が多かった。そこで、「字数」と「句数」の校訓を前表に
まとめてみた。ところが、いくつかの校訓が前回調査でもあったので、
その一部について、次の視点から関係を調べてみた。

前回の校訓と採用校・開校年度・設置学科を記す。

一字1句「徹」	愛知県立平和高等学校	昭和五十四年	普通科
「和」	山梨県立石輪高等学校	明治二十八年	普通科
	山梨県立青森西高等学校	昭和三十七年	普通科
	山梨県立葎崎工業高等学校	昭和三十八年	工業科

岐阜県立恵那農業高等学校 昭和四十一年 農業科
 沖縄県立美里高等学校 昭和五十二年 普通科

これから、今回の校訓に「徹」または、「和」を掲げている高校で、「和」については、高校の設置県が違っているので、統合もしくは再編されて開校した高校の校訓ではない。

また、「徹」という校訓の関係を調べてみた。結果は、昭和五十五年の開校した愛知県立常滑北高校で、今回調査した「都道府県別公立高等学校の校訓一覧」に記載したとおり、平成十八年に工業科の高校と統合されて開校し、常滑高校と校名を変更した高校であった。

二字3句の校訓「自律・至誠・友愛」

は、統合前の各高校の校訓を一句ずつ取り入れた校訓と推測した。

統合された高校名は、鹿児島県立川薩清修館高等学校と命名され、校訓は左記である。その推測根拠は

鹿児島県立宮之城高等学校 校訓 自律・明朗・気迫

鹿児島県立入来商業高等学校 校訓 誠実・友愛・識見・勇氣

鹿児島県立宮之城農業高等学校 校訓 至誠・自律・敬愛

の傍線部の校訓を採用し、二字3句という形態を存続させたと思われる。

二字4句の校訓「明朗・礼節・進取・自律」

は、昭和三十七年開校の秋田県立大館商業高等学校の校訓で、学科改編され校名を変更。秋田県立大館国際情報学院となり、校訓は、配列も変更されていない。

二字6句の校訓「自尊・敬愛・堅忍・協同・好学・進取」

は、前回調査では、昭和四十六年開校の大阪府立堺東高等学校（普通科）の校訓として掲げてあった。今回調査で、校訓の語句、配列共に

同じで、平成十四年学科改編され総合学科として校名は変更せず開校した高校の校訓である。

四字1句の校訓「大中至正」

は、前回調査によると四字2句の校訓の一つとして、明治三十三年開校の千葉県立大多喜高等学校（普通科）が掲げていた。そして、今回は、平成十六年大多喜女子高等学校と統合され大多喜高等学校と改名し、統合前の校訓「大中至正・剛健素樸」の一つ「大中至正」を残したものと受け取れる。

四字3句の校訓「誠実明朗・自発創生・和親協同」

は、前回調査で昭和三十四年開校の大阪府立成城高等学校の校訓として整理した。今回学科改編がなされ、総合学科設置の大阪府立成城高等学校として平成十七年に開校し、校訓を引き継いだと考えられる。

このように、統合されて新しく開校した高等学校では、統合前のいずれかの高校の校訓を掲げていると思われる。また、改編では校名、校訓は、そのまま引き継がれていると考えられる。

ここで、漢字の校訓の特長をまとめてみると

「字数」が（奇数）に対しては「句数」が（奇数）となる形が多い。

「字数」が（偶数）に対しては「句数」が（奇数）となる形が多い。

「二字・3句」が一番多く、次に「四字・1句」の形が多い。

六 漢字二字と四字による校訓のベスト5について

(一) 校訓二字の校訓ベスト5

二字1句から二字6句構成の校訓に出てくる二字の語句ベスト5を前回調査の結果と比較した。

順位	5	4	3	2	1	普通科
	努力	自主	自立	創造	誠実	
工業科	自律	勤勉	勤労	創造	誠実	
商業科	勤勉	自主	至誠	進取	誠実	
農業科	創造	至誠	勤勉	誠実	勤労	
水産科	協調	責任	努力	勤勉	誠実	
今回	自立	敬愛	誠実	自律	創造	

ここで、前回の調査結果を開校年度別に「ベスト5」として整理してみた。

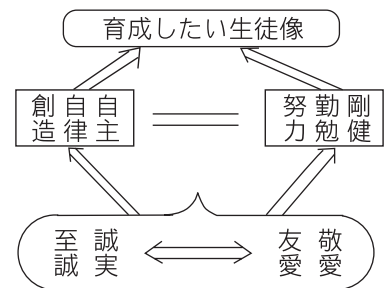
順位	5	4	3	2	1	明治	大正	昭和		平成	
	自律	剛健	創造	至誠	誠実			一年～三三年	二四～四九年	五〇～五五年	今回
	至誠	剛健	敬愛	勤勉	誠実			協同	努力	努力	自主
								協和	自主	誠実	敬愛
								友愛	自律	創造	誠実
								自主	創造	自律	創造
								誠実	誠実	誠実	誠実
								創造	創造	創造	創造
								創造	創造	創造	創造

予想していたように、昭和五十年以降に開校した高校では、「創造」「自律」の校訓がベスト2。これは、外的権威や自然的欲望に拘束されず、自分の立てた規範に従って行動し（自律）、新しいものを創り始める（創造）人材を、という社会背景が考えられる。

ここで、二字の校訓「ベスト5」に出てきた校訓を、次のグループに分けてみた。

「誠実・至誠」、「敬愛・友愛」、「創造・自律・自主」、「努力・勤勉・剛健」。

このグループに分けてみた時、学校はどのような子供を養成したいのか、その生徒育成（期待）像は、生徒各自が「剛健な体と精神力で



勤勉に努力してくれる」ことと同時に、「自主的に己を律しながら創造的な仕事をやれる。また創造性豊かな人間になる」生徒の育成を望んでいる。そして、生徒自身に対しては、「敬愛・友愛の念を以って人に接していく」という畏敬の念と思いやりの心を育て、人には「誠実で誠を尽くす」人間となって欲しいという気持ちがこの校訓ベスト5に表れていると思えてならない。

このように、前回調査と今回調査の結果を語句ごとに比較してみたが、二字の校訓については、前回と大きな変化は見られない。

(二) 漢字四字の校訓ベスト5

四字1句から四字3句構成の校訓に出てくる四字の語句ベスト5を前回調査の結果と比較した。

なお、四字の校訓は、前回調査では普通科一七九種類、実業系一九七種類、今回は五十六種類であった。

順位	5	4	3	2	1	普通科	工業科	商業科	農業科	水産科	今回
	自主創造	至誠一貫	自主自立	自主自律	質実剛健		報恩効誠	進取敢闘	明朗誠実	水産力国	切磋琢磨
							勤労愛好	至誠一貫	至誠一貫	水産報国	自主自立
							自主創造	明朗誠実	自主創造	団結融和	進取創造
							創意工夫	士魂商才	勤労愛好	進取力行	自主創造
							質実剛健	質実剛健	質実剛健	質実剛健	質実剛健

右表からも言えるように、開校年度また、学科は違っても四字1句のベスト1は「質実剛健」である。特に、今回の調査で、前回になかった四字1句の新しい字句の校訓はなかった。

このことから、校訓そのものは、時代は変わっても校訓の語句に大きな変化はないということが分かった。

ただ、右表で今回の調査ではなかった「勤労愛好」「報恩効誠」「士魂商才」「團結融和」「水産報国」「水産力国」という校訓は、開校した時代背景・社会情勢と学科の特殊性から考えられた校訓と思われる。

ちなみに、「士魂商才」という校訓を掲げている学校は、全国で十校あるが、北は北海道の明治十九年九月設立の「函館商業高等学校」、南は大正六年四月設立の大分県の「大分商業高等学校」である。他八校の設立年度は、明治時代が三校、大正が四校、昭和八年度に一校となっている。このことから、校訓制定には、時代の要請に応じた語句が校訓として掲げられ、地域性は考えられないことが分かった。

(三) 漢字だけの校訓の分類・分析を終えて
今回の調査では、漢字だけの校訓制定校が一二三校で、校訓制定校数一六二校に対する割合は七五・九%。

これを前回調査した普通科でみると、漢字だけの校訓制定校が五二一校で、校訓制定校数七一六校に対する割合は七二・八%。また、前回の工業科でも漢字だけの校訓制定校が一四五校で、校訓制定校数二一一校に対する割合は六八・七%という高率である。

このことから開校年度、大学科を問わず、漢字の校訓が多いと言える。また、漢字の校訓では、「二字三句」の校訓が一番多く、次に「四字一句」の校訓となっている。そこで、次の関係を今回調査の校訓から調べてみた。

四字の校訓で、二字の校訓に出てこない語句
 自発創生、和親協同、研学受理、互助信賴、知行合一、学業集中、古教創真、流汗求道、切磋琢磨、自重互敬、大中至正、天空海闊

図南雄飛、独立自尊、率先垂範、至実明練、同窓異彩、誠敬忍耐の十八句である。これは、四字の校訓六十五種の中の二十七・七%になる。

前回の調査でも、四字の校訓一七九種の中に四字の校訓で、二字の校訓に出てこない語句が四十八句あり二十六・八%で、今回とほぼ同率である。

四字の校訓で、上の二字が二字の校訓にある語句

(――線部が二字の校訓にある)

至誠励業、至誠無怠、至誠一貫、誠実明朗、自主明朗、自主独立、敬愛協心、堅忍不拔、協調現和

四字の校訓で、下の二字が二字の校訓にある語句

研理創造、自他敬愛、直心友愛、明朗進取、大志創造、和協友愛、立志勤勉

右記、の校訓について、前回の調査結果と比較してみた。

誠実明朗、自発創生、和親協同
 昭和三十四年開校の大阪府立成城高等学校が平成十七年改編され引き継いだと思われる。

研学受理、互助信賴、自主明朗
 昭和十八年開校の千葉県立市川工業高等学校が平成十八年統合され引き継いだと思われる。ただ、校訓の順番が変わった。

知行合一、至誠一貫
 昭和四十四年開校の山口県立萩工業高等学校が平成十八年商業高校と統合され萩工業高校の校訓を引き継いだと思われる。

大中至正
 明治三十三年開校の千葉県立大多喜高等学校が平成十六年大多

喜女子高校と統合され、大多喜高等学校の校訓を引き継いだと思われる。

学業集中、古教創真、自重互敬、天空海闊、図南雄飛
は前回調査ではない。

これらから、統合・改編された高等学校は、新しく校訓を制定するのではなく、統合・改編前のいずれかの高校の校訓をそのまま引用していると考えてよい。

七 漢字以外の校訓で短文調校訓とその顕著な変化例について

(一) 短文調校訓の分析

校訓は、前述した漢字だけで創られた校訓と、短文調の校訓に分類される。例えば、短文調の校訓としては、昭和十一年開校の都立豊島高等学校の「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり」また、大正十二年四月開校の栃木県立宇都宮工業高等学校の「一人は一校を代表す」というような校訓を短文調校訓として整理した。その短文調校訓は

前回調査では、校訓制定校	普通科七一六校中	短文調校訓一三九校
	工業系二一一校中	短文調校訓七二校
	商業系一四八校中	短文調校訓二八校
	農業系一四九校中	短文調校訓三一校
	水産系三〇校中	短文調校訓九校
今回調査では	一二六校中	短文調校訓二七校

このことから、前回調査の校訓制定校数に対する短文調校訓採用率は二十二・二%。今回調査では、二十一・四%と大差ない。

従って、校訓制定では、おおよそ、四分の一が短文調校訓を掲げていると判断した。

(二) 短文調校訓で前回の顕著な変化例

設置場所の名所などを校訓に引用した学校が前回調査にはあったが、今回はない。前回調査での校訓を一部紹介しておく。

昭和三十八年開校した北海道羅臼高等学校

知床の自然の如く厳しく、美しく、羅臼岳の如く悠然と。

昭和三十八年開校した静岡県立清水南高等学校

富士の如く端正に、橘の如く香り高く。

「・・・人間」「・・・人間たれ(なれ)」という「人間」が入った校訓、また「人」が入った校訓が前回調査にはあったが、今回はない。

前回調査では十五校あった。その一例を挙げる。

愛知県立春日井東高等学校 考える人間、あたたかい人間、たくま

しい人間

長崎県立大村高等学校 よき技術者たる前によき人間たれ

愛媛県立大洲農業高等学校 どこにだしても恥ずかしくない人間に

なれ

国家社会の役に立つ人間になれ

愛知県立碧南工業高等学校 人成って技術つ

愛知県立豊田工業高等学校 人あつて技術あり

「・・・ベシ」「・・・スヘシ」というカタカナ混じりで、命令調の校訓が前回調査にはあったが、今回はない。

前回調査では十六校あった。その一例を挙げる。

福井県立藤島高等学校 質実剛健ナルベシ、礼儀ヲ正シクスベ

シ、規律ヲ守ルベシ、責任ヲ重ンスベシ、勤勞尚ブベシ。

新潟県立新潟工業高等学校 國體ヲ尊上忠孝ヲ励ムヘシ、氣節ヲ尚上廉恥ヲ重ンスヘシ

福島県立福島農蚕高等学校 人格ヲ尊重シ智徳ヲ研鑽スベシ、師命ニ服シ規律ヲ遵守スベシ、農道ノ本義ヲ自覺シ勤勞ノ氣風ヲ振興スベシ

「……であれ」「……せよ」「……するな」という命令調の校訓が前回調査にはあつたが、今回はない。

前回調査では十三校あつた。その一例を挙げる。

愛知県立海南高等学校 事を成すに真剣であれ、人に接するに寛容であれ、みずからを律するに厳格であれ

長野県立小諸商業高等学校 高潔なる品性を養い協調親和を旨とせよ。

兵庫県立鈴蘭台高等学校 勤勉であれ、検算であれ、優雅であれ。「……しよ」「……にならう」という呼びかけ調の校訓が前回調査にはあつたが、今回はない。

東京都立忠生高等学校 その一例を挙げる。知性をたかめよう、人間性を豊かにしよう、心身を鍛えよう

佐賀県立東松浦高等学校 知性豊かな教養の高い人にならう、意志強固な実行力のある人にならう、困難に耐え抜く体力を持った人にならう

長崎県立鹿町工業高等学校 若さと強さで豊かに人間性を高めよう、

明るく健やかにスポーツに親しもう。

文部省訓令等を反映した校訓が前回調査ではあつたが、今回はない。

訓令文は、文部省発行の百年史から引用した。

訓令の「国民拳つて勤勉力行するの必要であることは……」の傍線が校訓。

訓令の「……社会生活に関する訓練を施すに在り而して敬神崇祖、社会奉仕、協同互助、規律節制、勤勞愛好……」の傍線部が校訓。

「夢」という文字を挿入した校訓は、今回はなかった。今回三高校が使用。

平成十一年四月新設されて開校した北海道立美唄高等学校 夢を叶えよ

平成十三年四月改編されて開校した三重県立いなべ総合学園高等学校 夢をかたちに

平成十五年四月統合されて開校した岡山県立備前緑陽高等学校 夢実現く心豊かに輝け個性く

平成十二年四月新設されて開校した鹿児島県立開陽高等学校 夢・実現

「風」という文字を挿入した校訓は、今回はなかった。今回一高校が使用。

平成十七年四月統合されて開校した宮崎県立延岡星雲高等学校 志の風・美しいの風・創造の風

「挑戦」、「挑戦者」という文字を挿入した校訓は、今回はなかつ

た。今回三高校が使用。

平成十九年四月統合されて総合学科として開校した北海道立釧路明輝高等学校

輝ける挑戦者たれ

平成十八年四月統合されて開校した茨城県立常陸大宮高等学校

挑戦・湧きあがれ君の力

平成十七年四月新設されて開校した鳥取県立米子白鳳高等学校

挑戦〜未来をひらく〜

英文による校訓が始めて出てきた

前回調査では、明治三十年四月設立の群馬県立高崎高等学校の三F精神（ファイティング・スピリット。フェアプレイ、フレンドシップ）、また昭和三年一月設立の都立第三高等学校（商業科）の「リトル・チェントルマンたれ」という校訓はあったが、カタカナで表記されていた。しかし、

平成八年四月統合されて開校した福島県立あさか開成高等学校の

Global Spirits Creative

Spirits Human Spirits

は純粹に英文で表記されていた。ちなみに、この学校の設置学科は国際科学科である。

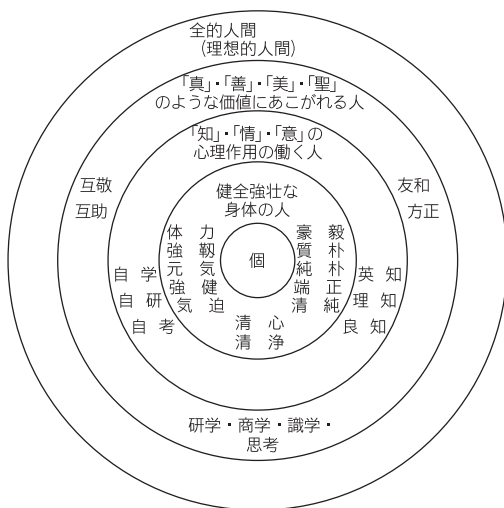
八 校訓に変化ありやなしについて

西暦一八五五年（安政二年）に開校した現在の校名、福井県立藤島高等学校の校訓から、平成十九年四月に開校した高等学校までの調査回答校数二〇二四校の校訓を見て、開校年度はそれぞれ違っても、校

訓に大きな変化はないと判断した。

ただ、これまでの調査から、漢字表示による校訓であっても、短文調の校訓であっても、同じ語句、短文は少ない。しかし、語句の一字を見るとき、その一字一字に秘められた思い（理念）が語句に、また短文は違っても、その短文に秘められた思い（理念）が伝わってくる。その思い（理念）が、究極は理想的人間像を表出していると思える。だから、理想的人間創りの理念が、校訓として掲げているから、校訓は時代は変わっても変化がないのだと判断した。

そこで、前述した漢字の校訓に戻る。漢字の校訓の種類の豊富さがわかる。ここで前回と今回の漢字二字の校訓で、ただ一校にしか出てこない校訓だけで学校が育成したい人間像は何かを考えた。究極は左表のような図ではないか。



上円は、

「強靱」な「体力」で「氣迫」のこもった「元氣」さを行動に表すことができる人間になって欲しい。

身なりは「端正」で、心は「清心」。高校生らしい「純朴（質朴・清純）」さの中に他人に対しては「誠之」・「至善」を尽くせる人間になって欲しい。

「清心」さを持ち、「友和」と「互助（互譲）」の清心で「自考」

「自省」し「日新」に「日進」めるように「自学」「自研」し、「良識」と「教養」を高められるよう「貞固」な「気力」で「気丈」に「研学」していける人間になって欲しい。

「理想」は「雄大」で「大志」「貫徹」のため「深慮」に「思慮」をし、根気よく「斬新」的に「窮理」「思考」し、「真・善・美・聖」を追求する中で、社会に貢献できる人間になって欲しい。

というような人間像が校訓から読みとれた。

この人間像は、時代は変わっても不変で、人間としての「人」創りの理念（校訓）は不変だと思えた。だから、校訓に大きな変化はないのだと判断した。

ところで、今回調査した公立高等学校の中には、社会構造の変化によって、地方では過疎化が進み、しかも平成十二年頃からは少子化の傾向が見え始め、何十年かの歴史を持つ学校が統合・再編されていた。

一方、国際化、科学技術の開発・進展、不登校等に対応できる新しい高校が新設されてきた。

そのような中で、校訓は

統合されて開校した高等学校では、どちらかの校訓を採用。

学科が再編された高等学校では、既存の校訓を継続。

新設された高等学校では、新規に制定。

されたと考えられる。

そして、校訓制定に際しては、

学校像と生徒像

公民・地域民・関係機関の学校への期待感

時代背景と社会状況

等を考慮しながら創り挙げられたと思っ

ている。従って、校訓は、各学校が各学校で学ぶ生徒をどのような人間に育てたいのか、また生徒にどのような人になってほしいのかを明示したもので、「人創りの場」が「学校」なのだ

と校訓調査から分かった。（なお、傍線部分は逆に置き換えても良い）だから、明治十一年（一八七八年）に設立された兵庫県立姫路西高等学校の校訓「質実剛健、自主創造、友愛協調」も、平成の時代でも使える校訓なのだ。

代わりに

昭和四十六年四月、鹿児島県に初めて理数科設置の錦江湾高等学校が新設された。その時、はからずも赴任を命じられ、校訓の制定などに関わった。関わる中で、校訓に対する無知さが、校訓調査に私を奮い立たせた。

それから約四十年。今回、平成元年度から平成十九年四月までに開校した公立高等学校の校訓調査ができて、色々な校訓と出会うことができた。

その色々な校訓は、校訓制定校数一四一六校の一四一六種類の校訓である。

しかし、この一四一六種類の校訓も、学校創設が一番早い一八五五年（安政二年）開校の福井県立藤島高等学校の校訓から、平成十九年四月開校の北海道立紋別高等学校の校訓まで、一五四年間という長い期間の校訓種類である。これらを

自主性（積極性）を強調した校訓 根気強さを 協力性を

公正さを 基本的な生活習慣を 責任感(誠意)を 創意
工夫を 質朴さを 向学心を 健康面を 寛容さを 情
緒の安定を 公共心を 勤労を スポーツと学問の両立を
長上への敬意(人格の尊重)を 社会への感謝を 平和の
願いを強調した校訓

とたったの十八種類に分けることができる。

このように、校訓の語句、文調に違いはあっても、学校が目指す人
創り基本は、十八の種類を言葉でどのように表現するかということに
他ならない。

今ある校訓は、これからもそのまま受け継がれるだろう。だから、
校訓に寿命はない。これだけでも会得できたことに感謝したい。そし
て、機会があれば、私学の高等学校の校訓を調査してみたい。

(二〇〇八年十二月三日 受理)